

事業活動実績報告書

施設名	やくし幼稚園	
教育理念	自ら考え行動する子どもたちの育成	
1 事業名	ののさまに親しみ、表現してみる	
2 実施期間	令和 7年 4 月 7 日 ～ 令和 8 年 3月 13 日	
3 取組概要	（取組日） 令和7年 4月 7 日 ～ 令和 7年 4月 30 日	
	（実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	花まつりに参加する 4月8日は灌仏会(釈迦の誕生日)で花まつりとして親しまれている。紙芝居等で花まつりに親しみを持つ。 敷地内に花御堂をたて、ののさまの誕生のお祝いをする。甘茶の存在を知る。 4/8は寺院でも大きなお祭りが開かれ、園児も親子で行事に参加する。	
	（取組日） 令和 7年 5月 1日 ～ 令和 8年 3月 13日	
	（実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	お花当番 クラスの代表の園児が、ののさまにお花を供える。ののさまにいろいろなことを頑張ることを約束し、ののさまからは、安全に過ごしていけるように見守ってもらうお願いをする。 花を1輪ずつ供えるが、当番の園児の花がまとまることで、力を合わせることの大切さ、一人の力の大きさも伝えていく。	
（取組日） 令和 7年 4月 7日 ～ 令和 8年 3月 14日		
（実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること		
献香献花 幼稚園の行事において、クラスの代表がののさまにお花をお供えし、お香をくべる。 代表の園児は、練習をして行事当日に臨む。		
（取組日） 令和 7年 4月 7日 ～ 令和 8年 3月 13日		
（実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること		
しょうぐうさんに親しむ 玄関等に幼稚園を見守るしょうぐうさんがいる。ののさまの一員として、子どもたちに親しみ深い姿かたちをしており、毎日子どもたちが親しんでいる。		
（取組日） 令和 8年 7月 1日 ～ 令和 7年 7月 31日		
（実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること		
みたままつりに参加する。 ののさまや先祖への感謝の気持ちをもって、みたままつり盆踊りに参加する。この日、ののさまは櫓の下に安置された大位牌に引っ越しをしてみんなを見守っている。行事の当日は、保護者も参加する。		

3	取組概要	(取組日) 令和 7年 5月 1日 ~ 令和 8年 3月 13日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		境内の散策 季節ごとに、境内を散策する。境内には伽藍が配置されており、お堂へは感謝の気持ちを持って挨拶をする。四季折々の植物や昆虫、カエルや、メダカなどを観察する。	
		(取組日) 令和 7年 11月 1日 ~ 令和 7年 11月 30日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		七五三のお参り 伝統行事である七五三のお参りを行う。子どもたちの作成したちとせあめの袋をののさまからいただく。	
		(取組日) 令和 7年 12月 1日 ~ 令和 7年 12月 19日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		成道会のお話会 12月8日の成道会にちなみ、僧侶にお話をしてもらう。成道会のお話を紙芝居を用いてわかりやすくお話をいただく。	
		(取組日) 令和 8年 1月 9日 ~ 令和 8年 1月 31日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		初詣 寺院の本堂に出かけ、初詣を行う。一年の安全を願いお参りをする。僧侶の法話を聞く。ののさまの家(厨子)や、仏像、仏具などの文化財の見学も行う。	
		(取組日) 令和 8年 2月 1日 ~ 令和 8年 2月 28日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		節分会 節分は季節の変わり目に邪気を払い福を招く日本の伝統行事で、幼稚園ではののさまの前で豆まきや鬼退治を通して心身の健やかな成長を願い日本の文化に親しむ機会とする。大型紙芝居を用いて、鬼に関する昔話を聞く。	
		(取組日) 令和 8年 2月 1日 ~ 令和 8年 3月 13日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		ののさまの絵を描く これまで見守ってくれていたののさまに感謝の気持ちをもって「わたしのののさま」を描く。	

効果検証報告書（継続事業用）

施設名	やくし幼稚園
教育理念	自ら考え行動する子どもたちの育成

計画時	事業の区分(5領域)	幼稚園教育要領に示された5領域に該当するもの（複数可。最も当てはまるものには◎を選択してください）				
		健康	人間関係	環境 ◎	言葉	表現 ○
	1 事業名	ののさまに親しみ、表現してみる				
	2 事業概要	やくし幼稚園ではののさま(仏さま)は子どもたちにとって身近な存在であるが、幼稚園内のののさまに親しみを持つだけでなく、寺院のののさまにも触れていき、自分のお気に入りのののさまを見つけてみたり、ののさまの絵を描いたり、粘土で表現することで、自分の好きなものなどを絵画や造形で表現するきっかけになる。				
	3 対象学級(クラス名) 対象人数	年少、年中、年長児 (クラス名:きいろ1組、きいろ2組、もも1組、もも2組、あお1組、あお2組)				120 名
事業後	4 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況				
		クラス担任教諭、寺院住職、寺院職員 寺院、幼稚園での園児向けの法話(ののさまの説明、ののさまの姿について、ののさまの違い) ののさまの絵の描画をしたり、粘土で表現してみる。				
	4についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等				
事業後	5 事業のねらい	仏教保育を主体とする本園では、ののさま(仏さま)の存在はとても大きく、ののさまが見守ってくれていることで、園児、教員、保護者も安心して生活を送ることができていると考えている。 ののさまを観察してみることで、表情の違い、体勢の違いなどに気づき、細部まで観察してみようという意欲につながる。 寺院に出かけていくことで、様々な歴史のあるののさまを見たり聞いたりして、いろいろな表現情報があることを知り、ののさまを絵や粘土で表現することで、いろいろなものを自分の手で表現してみようとする意欲につながり、表現力を育てていく。				
	5についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等				
		毎朝ののさまに手を合わせ挨拶をしていることで、ののさまが見守ってくれているという安心感から子どもたちは安定した園生活を送れているようだ。毎日見ているののさまでも、改めて観察することで新たな発見があり、描画などの表現をする際にさらなる観察力がついていくように思う。				

計画時	6 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等
		日々、幼稚園内のののさまに親しむ。(ののさまにご挨拶、歌をうたう) それぞれのののさまの姿かたちを観察し、それぞれの違いや、同じことに気づく。 寺院まで足を伸ばし、寺院のののさまにも触れる機会を設ける。ここでも、相違点や類似点に気づいていく。 自分のののさまを表現してみる。(絵画、粘土表現など)
		上記のうち、幼稚園教育要領に示された「内容」について、各園で積み重ねてきた取組を発展させた点
		環境:身近な物を大切にする。 生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ。 表現:生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。 かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする。 ののさまの存在は本園ではとても大きいものであり、園児、保護者、教職員にとっても大切な存在である。その、ののさまに焦点を当てた仏教行事以外の取り組みは今までなかったため、ののさまを観察したり、それぞれのののさまをお参りしたり、絵画等で表現することで、子どもたちの表現力や、観察力、注意力の育みに貢献できる。
事業後	6についての効果・検証	(継続事業のみ記入)前年度の取組から発展させた点
		日常の保育の中で、仏教説話や昔話など、ののさま(仏様)が出てくるお話の読み聞かせを積極的に行う。読み聞かせをすることで、お話の世界で、自分がののさま(仏様)と出会い、親しみを持つことができる。お話の世界と、自分たちの現実世界との橋渡しになることを期待する。
計画時	7 環境構成例	事業実績から推測される効果や改善点等
		仏教説話や昔話には寺や仏像が出てくるものが多い。物語に触れていくことで、物事を大切にしたり、善行を行うことなど、道徳観も身につけていくようだ。
		○「ののさま探検」として、園内のののさまに会いに行く。ののさまの場所は①園庭②保育室③廊下④ホールなので、その場所の確保が必要。 ○ののさまのお話を聞くため、担当の教諭を配置する。 ○寺院にお参りに行き、寺院のののさまにも会いに行く。日程の確保が必要。 ○寺院にもお話を聞くため、担当の職員等を配置する。 ○ののさまの描画の際には、クラスごとに絵画セットなど描画に必要なものを準備する。 粘土表現の際は、十分なスペースと粘土を準備する。 ○機会があったら作品を保護者に見ていただく機会を設けたい。
		事業実績から推測される効果や改善点等
事業後	7についての効果・検証	寺院にお参りに行く日程は、お花当番にて確保することができている。子どもたちの身近な道具である紙芝居等を用いて行うことで、無理なく触れていくことができた。

計画時	8 期待される効果 児童の姿	取組を通じて期待される児童の姿や効果等 ○毎日親しんでいるののさまに感謝の気持ちを持ち、心穏やかに園生活を送ることができる。 ○ののさまの複数の存在を知り、ののさまの表情、形の違いや類似点を見つけることで、集中力や観察力が育まれる。 ○自分の手で絵画や粘土で表現することで、さらに細部まで知りたいという意欲が芽生え、さらなる観察力、注意力が育まれる。
	事業後	事業実績から推測される効果や改善点等 ののさまに親しみを持ち、お話に触れることで、他者への思いやりや、生き物や物に対して大事にする心が芽生えていっているようだ。ののさまを描画する際には、細部への観察を行うことで、観察力が身についている。
	9 効果検証総括	事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて ののさまを通じて、安心感を得ると同時に、他者に対しての思いやりや、物を大切に扱ったり、生き物に対する命の大切さを感じ取ってくれているようだ。このことは幼児期に最も大切なことと考えており、今後も続けていきたい。

※必要に応じて、別紙の添付やイラストの活用などにより事業説明を補足しても構いません（別紙は任意様式）。

※幼保連携型認定こども園教育・保育要領における教育のねらいや内容等については、幼稚園教育要領の5領域から構成されていることを踏まえ、本事業では「幼稚園教育要領」とのみ記載しています。